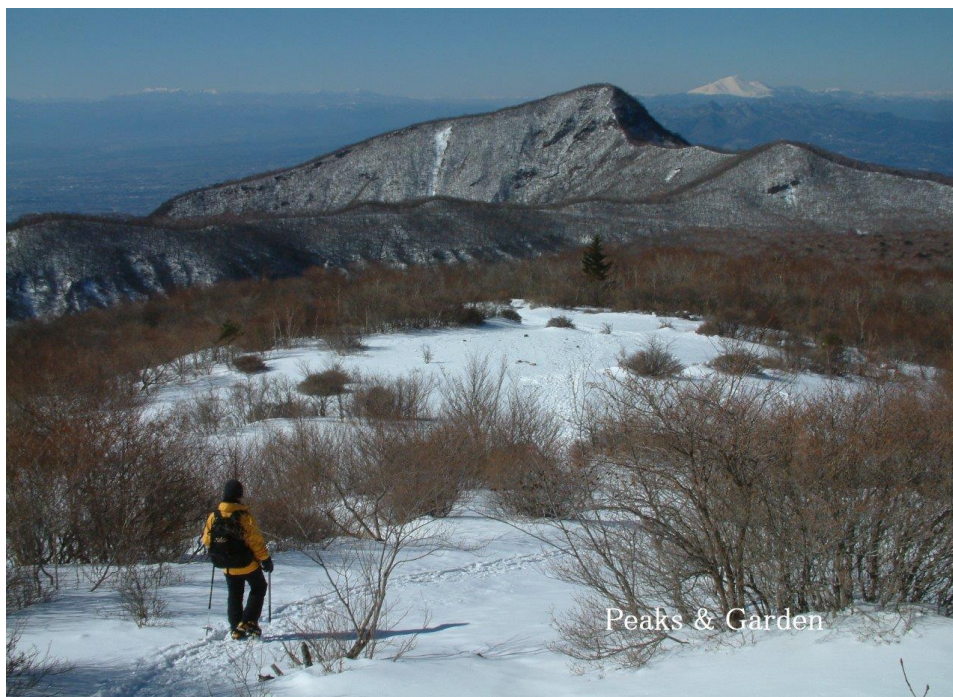

赤城山検定（1級）過去問と正解

第2回赤城山検定（1級：2017年2月13日）問題

1. この写真（棚橋氏提供）を見て、以下の文の（ ）内に語句を入れなさい。



この写真は（ 1 ）から（ 2 ）方向（方角）を撮影したものである。中央のピーク名は（ 3 ）で、左右非対称で左側に比べて右側が大きく切れ落ちているのは（ 4 ）のためである。ピーク『3』と尾根続きの小ピークは（ 5 ）である。

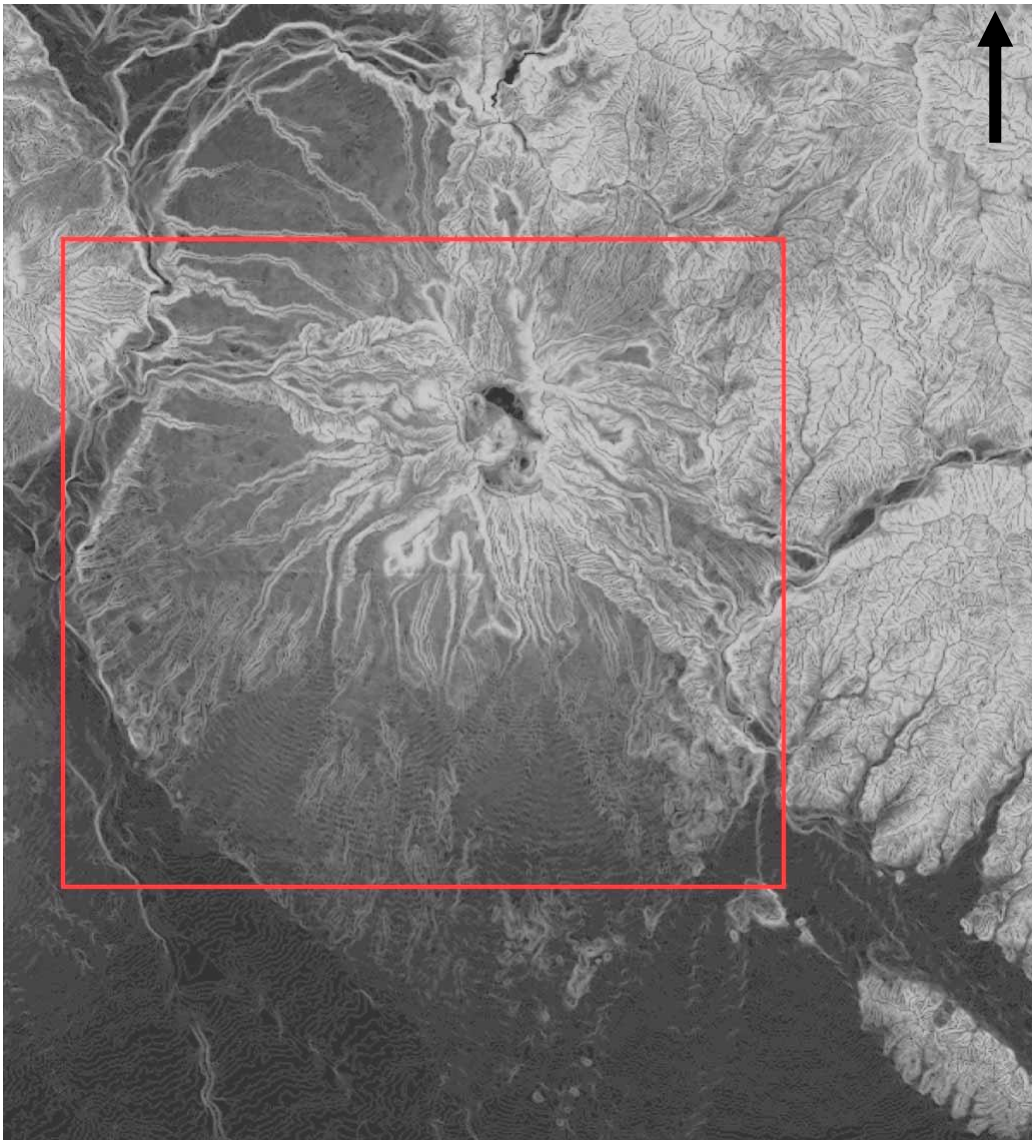
登山者が下りていく登山道を進むと分岐点に到達し、そこにある道標には、右に進むと（ 6 ）、左に進むと（ 7 ）と書かれている。

中央のピーク『3』の右側遠方に聳える雪をかぶった円錐形の山は（ 8 ）で、その手前は（ 9 ）である。左側遠方の雪をかぶった峰々は（ 10 ）である。

- 1 長七郎山
- 2 西
- 3 荒山
- 4 地獄谷の噴火（によって崩壊した）
- 5 前浅間山
- 6 小沼
- 7 オトギノ森
- 8 浅間山
- 9 榛名山
- 10 八ヶ岳連峰

2. 下の図（国土交通省資料）は、赤城山の傾斜図である。白色部分は傾斜が急で、黒色部分は傾斜が緩いことを示している。この図を見て、赤城山の特徴を5つ挙げよ。

北



- 11 裾野が南側に大きく発達している。
- 12 溶岩流（舌状の地形）が何本か流れている。
- 13 東側には足尾山地があり、裾野の発達が阻害されている。
- 14 片品川が、南流から西流に変更されている。
- 15 南側と北西側に山麓扇状地が発達している。

（●西側の馬蹄形地形の中に溶岩ドームが多数ある。●西側は子持山によって裾野の発達が阻止されている。●南西麓や南麓に山体崩壊による土石が堆積した孤立丘（流れ山）がある。●八王子山塊・鹿田山の延長上に赤城山がある。）

【11～15は★順不同。カッコ内の記述でもよい。】

3. かつて、山麓から赤城山山頂の大洞に向かう際には、山頂カルデラのどの峠を越えたか。

- 黒保根地区 → (16)
- 梨木地区 → (17)
- 大胡地区 → (18)
- 渋川・北橋地区 → (19)
- 沼田・利根地区 → (20)

- 16 鳥居峠
- 17 茶の木畑峠
- 18 牛石峠
- 19 姥子（うばこ）峠
- 20 五輪峠（野坂峠でも OK）

4. 赤城山という名前は麓から眺めた場合の山全体を指し、山頂付近にあるそれぞれの峰（ピーク）に対して名前がつけられている。以下に由来すると思われるピーク名を一つずつ挙げよ。

- 形状 (21)
- 農耕 (22)
- 宗教 (23)
- 気象・植生 (24)
- 用途 (25)
- 場所 (26)
- 人物 (27)

- 21 荒山、鈴ヶ岳、鍋割山、船ヶ鼻山
- 22 駒ヶ岳、鋏柄山
- 23 地藏岳、小地藏岳、薬師岳、前浅間山
- 24 黒檜山、小黒檜山
- 25 見晴山
- 26 出張山、北山
- 27 長七郎山、朝香嶺

★いずれか1つでよい

5. 以下の文章は覚満淵に関するものである。() 内に適する語句を入れよ。

覚満淵の名前は (28) 時代に、この地で比叡山延暦寺の高僧・覚満が法会を行ったという、南北朝時代に編まれた (29) の記述に由来している。

覚満淵は、かつては (30) の一部であったが、水面の低下で取り残されて湿原化した場所で (31) と呼ばれ、北東側には2~3mの厚さで泥炭層が堆積し、雨水のみで涵養される (32)

湿原がみられる。湿原内にある（ 33 ）は食虫植物で、覚満淵が栄養分に乏しい土地であることを示している。

かつて覚満淵には（ 34 ）の群落があり、7月に黄色い花で彩られた。しかし、ミヤコザサ（ニッコウザサ）の繁茂やシカの食害で数が激減してしまい、現在、シカ侵入防止ネットの設置、ササ刈りなどで、植生の回復が図られている。

1945年以前は（ 35 ）として利用され、群馬県花であるレンゲツツジの群落がある。

- 28 平安
- 29 神道集
- 30 古大沼湖
- 31 小尾瀬
- 32 高層
- 33 モウセンゴケ
- 34 ニッコウキスゲ
- 35 牧場

6. 以下の文章の（ ）内に語句を挿入せよ。

赤城山の中腹には広範囲にわたって、群馬県木である（ 36 ）林が広がっていた。本来は海岸ややせた土地で真っ先に自生する常緑巨木で、第二次世界大戦後、旧（ 37 ）の村民が協力して植えたのである。1961年、県道前橋ー赤城線（県道4号）、通称（ 38 ）沿いの標高500mの地で開催された（ 39 ）でも植樹された。しかし、（ 40 ）によるとされる被害が拡大し、ほぼ全滅してしまった。現在、植生の回復が図られている。

- 36 クロマツ
- 37 富士見村
- 38 赤城白樺ライン
- 39 第2回全国植樹祭
- 40 マツクイムシ（マツノザイセンチュウでもよい）

7. 以下の文章は赤城神社に関するものである。（ ）内に適する語句を入れよ。

赤城神社は、平安時代に書かれた（ 41 ）によれば、上毛野国（かみつけのくに：群馬県の古式名）十二社の二の宮で、（ 42 ）格となっていた。

三夜沢赤城神社の鳥居は（ 43 ）型で、中門前には俵藤太（藤原秀郷）が献木したと伝えられる俵杉が3本聳えている。参道は、約4kmにおよぶクロマツ・アカマツとヤマツツジの並木が続いている。

三夜沢赤城神社から登った尾根上に、（ 44 ）と呼ばれる巨大な安山岩の自然石があり、磐座（いわくら）信仰の場所と考えられている。

前橋市二之宮町に二宮赤城神社があり、この地域は、崇神（すじん）天皇の第一皇子（ 45 ）の

末裔である上毛野氏の支配地域の中心であったと考えられている。

赤城山頂の大沼の小鳥ヶ島に鎮座する大洞赤城神社（あるいは赤城神社元宮）は、大沼南岸にあった社殿が老朽化したため、1970（昭和45）年に現在地に移転されたもので、その社殿の額には（46）と書かれている。縁起では、信仰の対象となっていた仏は、大沼の（47）、小沼の（48）、神庫（ほくら）山の（49）で、この3つを赤城三所明神という。

前橋市富士見町小暮にある、大洞赤城神社一の鳥居は明神型で、その神額には江戸時代の書家（50）の書『赤城山』と書かれている。

- 41 延喜式神名帳
- 42 大社
- 43 神明
- 44 櫃石（ひついわ）
- 45 豊城入彦命
- 46 赤城大明神
- 47 千手観音
- 48 虚空蔵菩薩
- 49 地藏菩薩
- 50 角田無幻

8. 以下の文章は、赤城の「二人の主」と言われている猪谷六合雄・岩澤正作に関するものである。
（ ）内に適する語句を入れよ。

猪谷家は代々大洞赤城神社の神官を務め、同時に猪谷旅館を経営していた。猪谷六合雄は赤城山頂で最初に誕生した人物とされ、赤城山に滞在した際の体験から「焚火」を著した（51）をはじめとする多くの人々の世話をした。六合雄はイタリア・コルティーナ ダンペッツォ冬季オリンピックにおける（52）競技で銀メダルを獲得した千春の父親である。さらに、自ら地藏岳中腹に（53）を造り、当時の日本記録をうちたてた。

岩澤正作は神奈川県生まれであるが、明治35年に前橋中学校（現前橋高校）に赴任以来、昭和19年に亡くなるまで、群馬で活躍した郷土史研究者であり、博物学者でもある。著書（54）の中で、上毛三山はそれぞれ魅力があるが赤城山が一番であるとして「殊に茫漠たる平野に向かって、特趣の裾野を長く曳けるは一層人目を惹きて、上毛名山の月桂冠を得たる所以ならむ」と記述している。2016年、大洞赤城神社境内の（55）に、岩澤正作記念館が設置された。

- 51 志賀直哉
- 52 スラローム（回転）
- 53 ジャンプ台（ジャンツェ）
- 54 赤城山大観
- 55 赤城山資料館

9. 以下の文章は赤城山に関する伝説の一つである。() 内に適する語句を入れよ。

佐波郡赤堀村(伊勢崎市と合併した旧赤堀町)の長者 赤堀(56)には1人の娘がいたが、16歳になったとき赤城山に登り、小沼に入水した。娘はもともと、小沼の主の(57)だったのである。お供の腰元は(58)となり、小沼にすみついて娘を探しているという。

桐生市黒保根町の医光寺には娘が、小沼に入水する前に置いていったと伝えられる(59)が保管されているという。

月田(前橋市月田町)の(60)神社境内には、登山道中に立ち寄り、馬を休ませるために鞍を置いたという「鞍掛石」がある。

56 道元

57 竜(龍)

58 カニ

59 帯

60 近戸

10. 赤城山とその周辺には日本の100選に選ばれている場所が少なくない。その名称と所在地(●●市▲▲町とする)を記入せよ。

	<u>名 称</u>	<u>場 所</u>
「日本の滝百選」	(61)	(62)
「日本さくら名所100選」	(63)	(64)
「にほんの里百選」	(65)	(66)
「日本の歴史公園100選」	(67)	(68)
「日本の自然百選」	(69)	(70)

61 棚下不動の滝

62 渋川市赤城町

63 赤城南面千本桜

64 前橋市苗ヶ島町

65 室沢の棚田

66 前橋市粕川町

67 大室公園

68 前橋市西大室町

69 荒山高原

70 前橋市富士見町

11. 以下の文章は、赤城山の観光についての記述である。() 内に適する語句を入れよ。

昭和初期まで地蔵岳直下に地獄谷温泉の旅館があり、(71)は明治28年7月1日から15日まで滞在し、『一口剣』を完成させた。さらに、この滞在中の様子は『地獄溪日記』として著され、後世の赤城を訪れる文人たちに影響を与えた。

現在、赤城山山麓で火山活動と直接関係する温泉は、南麓にある炭酸水素塩泉の(72)だけである。この温泉は、かつては(73)と呼ばれ、初代群馬県令の(74)が二人目の妻文(後に美和子と改名)と婚前旅行に出かけたとされている。

1950年代、赤城山の観光開発にあたった東武鉄道は1957年、(75) (利平茶屋駅から鳥居峠の赤城山山頂駅間の全長約1,100m、標高差約360m)を開設した。さらに、地蔵岳山頂まで、(76) と(77)を使って登れるようにした。しかし、現在、これらの施設はすべて廃止されている。

渋川市赤城町南赤城山には(78)があり、森林セラピー・ステアリングコミッティより、「森林セラピー基地」に認定されている。

赤城山山麓の国道353号(柏崎市～みどり市)は東国文化歴史街道の愛称で呼ばれ、(79)ともいわれている。前橋市富士見町(当時は勢多郡富士見村)では、この道路が作られた昭和初期には開拓道路と呼んでいた。前橋市嶺町の嶺公園付近の国道353号を時速約40kmで東進すると、道路の舗装面に刻んだ細かい溝から発せられる音が、井上武士作曲の(80)となる。

- 71 幸田露伴
- 72 赤城温泉郷
- 73 湯之澤温泉
- 74 楯取素彦
- 75 赤城登山鉄道(ケーブルカー)
- 76 リフト
- 77 ロープウェイ
- 78 赤城自然園
- 79 赤城山南面道路
- 80 チューリップ

76 と 77 は順不同

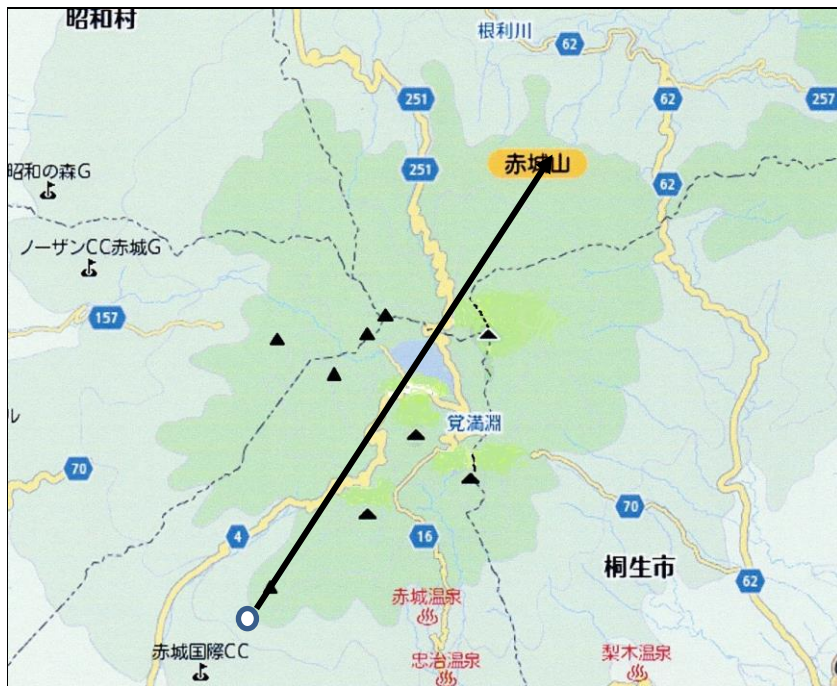
作文テーマ：赤城山をめぐる自由テーマ。

第3回赤城山検定（1級：2017年10月14日）

1. 赤城山山頂域を空撮したものである。この写真を見て、問1と2は地図上に記号を、問3～20は適する語句を入れなさい。



- どこの上空から（ 1 ）、どの方向（ 2 ）に撮影したのか、解答用紙の地図上に、それぞれ○と→で示せ。
- 皿状の凹地形は（ 3 ）と呼ばれ、周囲を囲む峰々は外輪山と呼ばれる。この地形ができたのは、約（ 4 ）万年前に大噴火があつて大量の軽石を噴出して内部が空洞になって陥没したためである。この活動で噴出した軽石は（ 5 ）軽石層と呼ばれ、また火山灰や軽石を含む高温の（ 6 ）が南側の大胡方面に流れ下り、先端は伊勢崎市北部まで到達した。
- 皿状の凹地形の中に峰が3つある。その名前は、右から（ 7 ）、（ 8 ）、（ 9 ）である。
- 湖が2つある。右は（ 10 ）でタイプは（ 11 ）湖に、左は（ 12 ）でタイプは（ 13 ）湖に分類される。
- 皿上の凹地形は3ヶ所で河川によって切られている。それらの河川の名前は、右から（ 14 ）、（ 15 ）、（ 16 ）である。
- 中央奥の峰は赤城山の最高峰（ 17 ）で、その標高は（ 18 ）メートルである。
- この写真の中で、赤城五峰に含まれるピークの数（ 19 ）個である。
- 全体を見渡すと、赤城山は（ 20 ）火山であることがわかる。



- 1 ○の位置 (近傍なら OK)
- 2 → (荒山－地蔵岳－黒檜山が直線上にあればよい)
- 3 カルデラ
- 4 4.5
- 5 湯の口
- 6 火砕流
- 7 小沼火山
- 8 地蔵岳
- 9 見晴山
- 10 小沼
- 11 火口
- 12 大沼
- 13 カルデラ (火口原)
- 14 粕川
- 15 赤城白川
- 16 沼尾川
- 17 黒檜山
- 18 1,828
- 19 3
- 20 複式成層

2. 赤城山は多くの人や団体によって、「日本百選」、「日本百名山」、「花の百名山」、「日本の自然 100 選」、「女性のための百名山」、「人と自然の織りなす風景 100 選」、「日本百景」、「新・花の百名山」などに選定されている。さらに、赤城山山体域内では、以下の百選 (100 選) もある。どこを指して

いるのか。

「日本の滝百選」	(21)
「日本さくら名所 100 選」	(22)
「にほんの里百選」	(23)
「水源の森百選」	(24)
「美しい日本の歴史的風土準 100 選」	(25)
「ローカル線 100 選」	(26)
「日本の歴史公園 100 選」	(27)
「夜景 100 選」	(28)
「疏水百選」	(29)
「新日本名木百選」	(30)

- 21 棚下不動の滝
- 22 赤城南面千本桜
- 23 前橋市粕川町室沢の棚田
- 24 沼田市利根町の森林
- 25 三夜沢赤城神社と参道
- 26 JR 上越線、両毛線、わたらせ渓谷鐵道（どれか 1 つ書いてあれば OK）
- 27 大室公園
- 28 大パノラマ夜景展望台（サンシャイン峠展望台でも OK）
- 29 群馬用水
- 30 横室の大カヤ

3. 以下の文章は、赤城山の山開きに関するものである。() 内に適する語句を入れよ。

赤城山は、807（大同 2）年、(31) によって開山されたという。この人物は (32) を開山したことでも知られている。赤城山の山開きは (33) で、この日は「山の神」と「里の神」が交替するとの伝承がある。

かつて、東麓（旧 黒保根村）の人たちは、赤城山の山開きのとき、過去 1 年間に亡くなった人のいる家では (34) に登り、山頂の賽の河原で石積みをして、亡き人を弔った。

- 31 勝道上人
- 32 二荒山（男体山）
- 33 5 月 8 日（旧歴 4 月 8 日、卯月 8 日）
- 34 神庫山（地藏岳）

4. 以下の文章は赤城神社に関するものである。() 内に適する語句を入れよ。

●赤城神社は、平安時代前期に編纂された (35) によれば、上毛野国（かみつけのくに：群馬県

の古式名) 十二社の二の宮で、一の宮は (36) である。

赤城山頂の大沼の小鳥ヶ島に鎮座する大洞赤城神社(赤城神社元宮)は、大沼南岸にあったが、1970(昭和45)年に現在地に移転した。

湖畔から(37)橋を渡り、(38)型鳥居をくぐった先にある朱色の社殿の額には(39)と書かれている。祭祀されているのは「39」のほか、(40)などがある。

●三夜沢赤城神社の白木の鳥居は(41)型で、鳥居から参道を約400m下った場所は、かつて3方向からの参道が交わっていた。そこには(42)がある。

赤城神社社殿の中門の前には3本のスギ巨径木があり(43)と呼ばれている。これは名前の由来となっている(44)が献木したとされるが、実際は(45)が植えたと考えられている。

- 35 延喜式神名帳
- 36 貫前神社
- 37 啄木鳥
- 38 明神
- 39 赤城大明神
- 40 徳川家康(豊城入彦命などでもよい)
- 41 神明
- 42 赤城神社惣門
- 43 俵杉
- 44 俵藤太(藤原秀郷)
- 45 大胡氏

5. 以下の文章は赤城山の観光開発に関するものである。()内に適する語句を入れよ。

長い間、赤城山山頂域は信仰と、牧場・採氷・木材採取といった生産の場として利用されていた。戦前は、大洞赤城神社脇の(46)と沼尻の(47)が赤城山滞在者の主要宿泊施設であった。戦後になって観光が盛んになり、観光開発をめぐって西武鉄道に勝利した(48)は1957年、(49)と(50)間に全長約(51)メートルの赤城登山鉄道(ケーブルカー)を開設し、東京方面からの集客を図った。同時期に、鉄道が乗り入れている新大間々駅を(52)駅に名称変更した。

さらに、(53)山頂まで、リフトとロープウェイで登れるようし、観光だけでなくスキー場としての開発も行われた。なお、これらの施設はすべて廃止となっているが、(54)にはスキーリフトの鉄柱1本が残されている。

赤城山山頂域には温泉はないが、かつては地藏岳直下に(55)の旅館があり、幸田露伴は1895(明治23)年に2週間滞在して『一口剣』を完成させた。

- 46 猪谷旅館
- 47 青木旅館
- 48 東武鉄道
- 49 利平茶屋(鳥居峠でもよい)
- 50 鳥居峠(利平茶屋でもよい)

- 51 1, 100
- 52 赤城
- 53 地藏岳
- 54 八丁峠
- 55 地獄谷温泉

6. 以下の文章は、赤城山の動・植物についての文章である。() 内に適する語句を入れよ。

赤城山山頂域で、大きなものは樹齢が200年、直径が1メートルにも達する落葉広葉の巨径木の多くは(56)である。県道4号を登った箕輪地区にはクリの巨径木があり、最大の木は姫百合駐車場近くにあつて(57)の愛称で呼ばれている。旧赤城神社の境内には、(58)やクロベの巨径木がある。

姫百合駐車場から地獄谷の間は、「56」の巨径木に(59)が寄生しており、その分布は渡り鳥である(60)の通過場所と一致している。常緑で生命力に溢れているところから北欧ではクリスマスのリース飾りに使われ、この寄生樹の下で男女が愛を語ると成就するといわれている。

赤城山山頂の(61)は小尾瀬と呼ばれる湿原で、食虫植物の(62)やユリ科の(63)がみられる。かつては、7月中旬になると「63」によって(64)色に彩られた。しかし、赤城山山頂域では、(65)方面からやってきた(66)による食害が深刻である。そのため、「61」では、食害防止するため周囲をネットで囲み、侵入を防いでいる。また、長年にわたる放置による(67)の繁茂と湿原の乾燥化が「63」の減少に関与している可能性があり、植生回復を図る活動として(68)も行われている。

(69)は群馬県花であり、赤城山山頂域では「61」の他に、(70)などに群落がある。この植物は日当たりを好み、かつて(71)として利用されていた場所に多く見られる。

(72)はゴヨウツツジとも呼ばれ、小沼南岸に群落がある。

- 56 ミズナラ
- 57 赤城栗太郎
- 58 ウラジロモミ
- 59 ヤドリギ
- 60 キレンジャク・ヒレンジャク (どちらでもよい)
- 61 覚満淵
- 62 モウセンゴケ
- 63 ニッコウキスゲ
- 64 黄
- 65 足尾
- 66 ニホンジカ
- 67 ミヤコザサ・ニッコウザサ (どちらでもよい)
- 68 ささ刈り
- 69 レンゲツツジ
- 70 新坂平 (白樺牧場、小沼平などでもよい)
- 71 牧場

7. 以下の文章は赤城山に関する伝説である。() 内に適する語句を入れよ。

- 1569 (永禄 12) 年、富士浅間神社の神が (73) 山頂に降臨し、ここに、浅間神社を祀ったとの記述がある。軽井沢峠と「73」との間に位置する小ピークを (74) というのは、そのためである。
- 「73」には (75) と呼ばれる (76) がいて、弘法大師が修行のために霊場探しをしているのを妨害したり、(77) 県由良町にある (78) を一晩で再建したりしたとの伝説がある。

73 荒山

74 前浅間山

75 杉の坊

76 (大) 天狗

77 和歌山

78 興国寺 (法燈寺)

8. 赤城山山頂域における行政区分について、適切な場所を () 内に入れよ。

(79) 前橋市、桐生市、沼田市が 1 点で交わっている

(80) 前橋市、沼田市、渋川市が 1 点で交わっている

79 黒檜山大神の鳥居 (御黒檜大神の石碑・石宮)

80 (五輪尾根の) 薬師如来の石碑

作文テーマ：赤城山に対する思い、赤城山のアピール点など (タイトルは自由)

第4回赤城山検定（1級：2018年10月13日）

1. 写真は昭和初期に、赤城山で撮影されたものである。この写真を見て、以下の文章の（ ）内に適切な語句を入れなさい。



この写真は（ 1 ）の（ 2 ）側斜面を撮影したものである。建設中の施設は（ 3 ）で、赤城の主の一人とされている（ 4 ）が中心となって建設された。（ 5 ）年2月にはこの施設を利用して国際大会が開催され、当時の日本記録が打ち立てられた。

（ 4 ）の息子（ 6 ）は、1956年にイタリアのコルチナ ダンペッツォで開催された冬季オリンピックの（ 7 ）種目で銀メダルを獲得した。

- 1 地蔵岳
- 2 南東（東でもOK）
- 3 スキージャンプ台（ジャンツェ）
- 4 猪谷六合雄
- 5 1929（昭和4年でもOK）
- 6 猪谷千春
- 7 スラローム（回転）

2. 写真は、赤城山を山麓のある地点から撮影したものである。以下の文章の（ ）内に適切な語句を入れなさい。



この写真は（ 8 ）橋から撮影したもので、左から（ 9 ）、（ 10 ）、（ 11 ）、（ 12 ）、（ 13 ）の順に、赤城五峰が全て映っている。

山麓の小山は（ 14 ）と呼ばれ、約（ 15 ）前にあった山頂部の大規模山体崩壊の土石が堆積したものである。周囲より高いため城や砦として利用され、代表的なものに（ 16 ）城などがある。

- 8 上毛大（橋）
- 9 鈴ヶ岳
- 10 黒檜山
- 11 地藏岳
- 12 鍋割山
- 13 荒山
- 14 孤立丘（流れ山でも OK）
- 15 20 万年
- 16 箱田（真壁でも OK）

3. 前橋市街地から赤城山頂に行く場合、県道4号（前橋 - 赤城線）を經由するのが一般的なルートである。このルートに関する以下の文章の（ ）内に適切な語句を入れなさい。

県道4号（前橋赤城線）の一部は（ 17 ）街道の愛称を持つ道路に含まれ、また、小暮一の鳥居から上部はかつての有料道路で（ 18 ）の愛称がある。この鳥居には江戸時代の書家（ 19 ）による（ 20 ）の書を模した神額が掲げられている。

県道4号は山頂を源流とする（ 21 ）に沿っており、橋で4回渡るが、最も長いのは（ 22 ）番目に渡る（ 23 ）である。標高約1,000mには箕輪の（ 24 ）駐車場があり、ここより（ 25 ）へ向かう登山道が始まる。また、この一帯は（ 26 ）となっており、全長380mの木製（ 27 ）がある。

県道4号をさらに登ると、道路の左右に（ 28 ）の大木が目立つようになり、枝先には常緑の寄生植物である（ 29 ）がみられる。この植物の存在域は渡り鳥の（ 30 ）の通過地域と重なっている。

一杯清水のヘアピンカーブを繰り返して標高1,300mを超えたあたりで、道路左側のトンネルから水がでている。これは、（ 31 ）の構想から80年余を経て1957（昭和32）年に完成した（ 32 ）

の導水トンネルである。

道路は最高点の（ 33 ）に達するが、この場所は2011年に始まった、前橋市下細井町から標高差1,313mを駆け上る（ 34 ）のゴール地点でもある。ここには赤城山観光総合案内所があって（ 35 ）が併設されており、赤城山に滞在した文人や著名人の資料が展示されている。また、一帯は牧場として利用されてきたため高木がなく、（ 36 ）の群落があって6月初旬からオレンジ色の花が咲き乱れる。

- 17 東国文化歴史
- 18 赤城白樺ライン
- 19 角田無幻
- 20 赤城山
- 21 赤城白川
- 22 2
- 23 大河原橋
- 24 姫百合
- 25 荒山高原（荒山、鍋割山でもOK）
- 26 赤城森林公園 赤城ふれあいの森（赤城森林公園だけでもよい）
- 27 ローラーライダー
- 28 ミズナラ
- 29 ヤドリギ
- 30 キレンジャク（ヒレンジャクでもOK）
- 31 船津傳次平
- 32 赤城大沼用水
- 33 新坂平
- 34 赤城ヒルクライム
- 35 白樺の森文学コーナー
- 36 レンゲツツジ

4. 小沼と粕川に関する以下の文章の（ ）内に適する語句を書きなさい。

小沼は（ 37 ）に分類される湖で、（ 38 ）の娘の伝説がある。小沼を水源とする粕川は小滝で落下して、山頂カルデラ内にあった3つの湖のうちの1つの湖の跡である（ 39 ）に達する。粕川が山頂カルデラの外輪山を切る場所は（ 40 ）と呼ばれ、これより先では滝や瀬が続き、落差約32mの（ 41 ）に至る。この付近の岩石は約（ 42 ）に噴出した高熱の火山灰や軽石が堆積してきた（ 43 ）で、やわらかい部分は浸食されて（ 44 ）に代表される洞窟になっている。

粕川は下流の（ 45 ）まで、（ 41 ）の流れによる浸食のため両岸が切り取ったような廊下状になっている。

- 37 火口湖
- 38 赤堀道元
- 39 オトギの森

- 40 銚子の伽藍
- 41 不動の大滝（不動滝でも OK）
- 42 4.5 万年前
- 43 溶結凝灰岩（集塊岩、凝灰角礫岩でも OK）
- 44 忠治の岩屋
- 45 滝沢不動尊

5. 覚満淵に関する以下の文章の（ ）内に適する語句を書きなさい。

覚満淵は小尾瀬とも呼ばれ、北東側の一部が（ 46 ）化していると言われる。また、土壌の栄養分が乏しいことを示す食虫植物の（ 47 ）がある。この場所は、70 年以上前は（ 48 ）として利用され、（ 49 ）の群落があつて7月中旬に黄色い花で埋め尽くされた。しかし、乾燥化と長年間放置したため（ 50 ）の繁茂や、足尾から移住してきた（ 51 ）の食害で数が激減した。

赤城山信仰が盛んであつた江戸時代は、黒保根方面からようやく（ 52 ）に到着した人々が、覚満淵、大沼、周囲の峰々を見渡して（ 53 ）に例えていたという。

- 46 高層湿原
- 47 モウセンゴケ
- 48 牧場
- 49 ニッコウキスゲ
- 50 ミヤコザサ（ニッコウザサでも OK）
- 51 ニホンジカ（シカでも OK）
- 52 鳥居峠
- 53 極楽浄土

6. 三夜沢赤城神社と大洞赤城神社に関する以下の文章の（ ）内に適する語句を書きなさい。

赤城神社は平安時代に編纂された（ 54 ）では、上野国（かみつけのくに：群馬県の古式名）十二社のうちの（ 55 ）で、一之宮は（ 56 ）である。

前橋市三夜沢町に鎮座する三夜沢赤城神社の白木の鳥居は（ 57 ）型で、主祭神は（ 58 ）と（ 59 ）で、中門前に（ 60 ）と呼ばれる3本の巨径木がある。三夜沢赤城神社から約1 km登った尾根上には古代の（ 61 ）の対象になっていた（ 62 ）があり、周囲から巨大な勾玉や土器が発見されている。

大洞赤城神社は、かつてあつた小沼端の豊受神社、小鳥ヶ島の巖島神社、黒檜山頂の高於神神社をはじめ、赤城山内の各峰神社を合祀して、現在に至っている。湖畔から続く朱色の橋の名前は（ 63 ）である。現在の社殿は、大沼南畔にあつた約350年前に建てられていた社殿が老朽化したため、（ 64 ）年に遷座されたものである。大洞赤城神社の初代神官 猪谷（いがや）米雄の長男 晴雄は、赤城神社のすぐ南で猪谷旅館を開業したが、現在は廃業している。

- 54 延喜式神名帳
- 55 二の宮
- 56 貫前神社
- 57 神明
- 58 豊城入彦命
- 59 大己貴命
- 60 俵杉
- 61 磐座信仰
- 62 櫃石
- 63 啄木鳥橋（きつつきばし）
- 64 1970（昭和45でもOK）

★58、59は逆でもよい

7. 赤城山と関係する文学・芸術について述べた以下の文章である。（ ）内に適する語句を書きなさい。

（ 65 ）は、1890（明治23）年、地獄谷温泉に2週間滞在して『一口剣』を完成させ、滞在中の経験を『地獄溪日記』に著して、後世の赤城を訪れる文人たちに影響を与えた。

（ 66 ）は、1915（大正4）年5月から9月まで、康子夫人と大洞の山小屋に滞在し、その経験をヒントに著したのが短編小説『焚火』である。

赤城山、榛名山、妙義山について、江戸時代は三山をまとめた表現はなかった。1886（明治19）年の『上野国地誌略』には上野三山の表記がある。上毛三山の表記は、（ 67 ）が作詞した「上野唱歌7番」が最初である。

（ 68 ）は、「赤城は幽邃(ゆうすい)なり、榛名は温順なり、妙義は奇警斬新なるが如し」と表現している。また、「榛名笑ひ 赤城泣き 妙義怒るかな」、「榛名春 赤城夏 妙義を秋の姿かな」と詠んでいる。

（ 69 ）は俳人で、赤城山を「おっとり長男」と例えている。

- 65 幸田露伴
- 66 志賀直哉
- 67 石原和三郎
- 68 正岡子規
- 69 金子兜太

8. 赤城山の形成過程に関する以下の文章ので、（ ）内に適切な語句を書きなさい。

赤城山は（ 70 ）火山帯に属し、海洋型の（ 71 ）プレートが大陸型の（ 72 ）プレートの下に潜り込むことでできたマグマが、大規模な断層帯（ 73 ）の割れ目で噴出して形成された。火山噴出物は、西側半分は厚いが、東側半分は足尾山地の傾斜地を薄く覆っているだけである。

赤城山の活動の歴史は約（ 74 ）万年に及び、幾多の噴火活動によって山頂部にカルデラと中央

火口丘を持つ（ 75 ）火山に分類されている。中央火口丘や側火山のタイプはいずれも（ 76 ）であり、その岩石は（ 77 ）である。

赤城山の大きさは、分布面積（ 78 ） km^2 で群馬県の面積の約（ 79 ）%に相当し、体積は約 100km^3 である。

赤城山の本格的な火山活動は約 2.4 万年前に終了したが、その名残は（ 80 ）の熱源となっている。

- 70 東日本
- 71 太平洋
- 72 北米
- 73 柏崎－千葉構造帯（柏崎－千葉線でも OK）
- 74 40（40～50 の間なら OK）
- 75 複式成層
- 76 溶岩ドーム
- 77 安山岩
- 78 700
- 79 11（10%でも OK）
- 80 赤城温泉

作文テーマ：赤城山に対する思い、赤城山のアピール点など（タイトルは自由）

第5回赤城山検定（1級：2019年10月5日）

1. この写真について、以下の問いに語句にて解答せよ。



① のピーク名を記せ（ 1 ）

② のピーク名を記せ（ 2 ）

③ のピーク名を記せ（ 3 ）

④ の山名を記せ（ 4 ）

⑤ の山名を記せ（ 5 ）

⑥ の山名を記せ（ 6 ）

⑦ の山名を記せ（ 7 ）

赤城山のどの地点から（ 8 ）、どの方角（ 9 ）を撮影したものか。

撮影場所と左下に見える湖面との標高差はどれくらいか（ 10 ）

- 1 楯柄山
- 2 鈴ヶ岳
- 3 薬師岳
- 4 榛名山
- 5 浅間山
- 6 子持山
- 7 白根山（草津白根山、本白根山でもよい）
- 8 黒檜山山頂展望台（黒檜山山頂でも OK）
- 9 西方向
- 10 約 480m

2. 県道 16 号（大胡赤城線）について、() 内に適切な語句を入れよ。

県道 16 号は赤城南面登山道や赤城サンダーボルトラインとも呼ばれ、赤城山山頂に至る自動車通行可能な (11) 本の道路のうちの 1 つである。しかし、冬季は閉鎖される。

大胡市街から北に向かって (12) 川の右岸を走ると、すぐ左側に (13) 城址がある。この城は、徳川家康の関東移封に伴い、その家臣 牧野康成が 2 万石で入り、1616 (元和 2) 年、牧野氏が越後 長峰へ 5 万石で転封になった後、酒井氏時代には城代が置かれた。1749 (寛延 2) 年、酒井氏の姫路転封に際し、廃城となった。

しばらく走った後に鼻毛石・柏倉交差点をクランク状に曲がって北に向かうと、左側に群馬県内で有数の古民家の一つで国重要文化財に指定されている (14) が、その先の右側に 2018 年よりカネコ種苗がネーミング契約した (15) の入り口がある。ここより、(16) に選定されている三夜沢赤城神社参道が始まり、クロマツ・アカマツとヤマツツジの並木が約 3.5km にわたって続く。

県道 16 号と (17) が交差する三夜沢交差点を直進すると三夜沢赤城神社の白木の (18) 型鳥居が見えてくる。鳥居の手前を右折して進むと赤城温泉入口に到着する。赤城温泉は、かつては (19) と呼ばれ、鎌倉末期～南北朝時代の武将 (20) の隠れ湯の 1 つであったとされ、江戸時代～昭和初期には多くの文人が宿泊した。

道路はヘアピンカーブを繰り返しながら標高を上げるが、右側の谷は (21) 川が造ったもので、ここには落差 32m の (22) 滝が懸かっている。鉄骨製で螺旋階段のある (23) を過ぎて (24) 峠で山頂カルデラ内に入り、それより標高が約 (25) m 高い (26) 峠を越えると、右側に火口湖である (27) が見えてくる。

道路は下りになって県道 4 号（前橋赤城線）との T 字路になり、右に行くと (28) 峠へ、左に行くとカルデラ湖の (29) に至る。この付近の地番は (30) である。

- 11 3 (本)
- 12 荒砥 (川)
- 13 大胡 (城)
- 14 阿久沢家住宅
- 15 (カネコ種苗) ぐんまフラワーパーク
- 16 美しい日本の歴史的風土 100 選
- 17 国道 353 号
- 18 神明 (型)
- 19 湯之 (ノ) 澤 (沢) 温泉
- 20 新田義貞
- 21 粕 (川)
- 22 滝沢の不動 (滝)
- 23 大パノラマ夜景展望台 (サンシャイン峠展望台)
- 24 牛石 (峠)
- 25 78 (m)
- 26 八丁 (峠)
- 27 小沼
- 28 鳥居 (峠)

- 29 大沼
- 30 前橋市富士見町赤城山 1 番地

3. 以下の文章は、赤城山におけるウインタースポーツの歴史である。() 内に適切な語句を入れよ。

かつて赤城山の冬季は人がほとんど住むことはなく、(31) を夏季まで保存し、東京方面への出荷が行われていた。

日本にスキーが伝わったのは 1910 (明治 43) 年で、大正末期から昭和初期になると、赤城山は東京から近いことと良質の雪が積もることからウインタースポーツが盛んとなった。赤城山山頂付近で生まれた初めての人と呼ばれている (32) は、1914 (大正 3) 年からスキーを始めた。彼の設計によって (33) に本格的な (34) が建設され、(35) 年 2 月に、この施設を使った秩父宮・高松宮の台覧国際ジャンプ大会が実施され、(36) が当時の日本記録 (46m) を打ち立てた。

(32) は敗戦後間もなく、(33) の北面に全長約 600m の (37) も造っている。なお、息子の (38) は幼少期に赤城山で生活し、1956 年開催のイタリアの科尔ティナ・ダンペッツォ冬季オリンピックにおけるスラローム種目の銀メダリストとなった。練習に使用していた (39) が (40) に展示されている。

(32) の甥 (41) は、パラレル・クリスチャニアを日本人として初めてマスターし、1937 (昭和 12) 年、日本初の (42) を赤城山で開設し、また、ほぼ同時期に、(43) 旅館では敷地前にスキーゲレンデを造り、日本初のレンタルスキーを開始した。

スキーと並行して大沼や小沼における (44) も盛んになり、1930 (昭和 5) 年には、(45) 大学が合宿地として赤城山を指定し、毎年練習に励んだ。

現在は、様々な場所で豪華なウインタースポーツ施設ができたことと、スポーツの流行変遷などにより、赤城山のウインタースポーツはほとんど行われなくなってしまい、スキーリフトは撤去され、第一スキー場が日本で一番小さいスキー場として営業しているだけである。

- 31 氷
- 32 猪谷六合雄
- 33 地藏岳
- 34 スキージャンプ台 (シャンツェ)
- 35 1929 年 (昭和 4 年でも OK)
- 36 伴素彦
- 37 スラロームバーン (回転競技用コース)
- 38 猪谷千春
- 39 スキー板
- 40 県立赤城公園ビジターセンター
- 41 大熊勝朗
- 42 スキー学校
- 43 青木 (旅館)
- 44 スケート
- 45 明治 (大学)

4. 下記の文章は、赤城山の概要を述べたものである。() 内に適切な語句を入れよ。

赤城山（最高峰は黒檜山 1827.7m）は日本列島のほぼ中央に位置し、分布面積約（ 46 ）km²、山体体積（ 47 ）km³の、山頂にカルデラと（ 48 ）やスコリア丘の中央火口丘を 3 個持つ大規模な複式成層火山で、榛名山（最高峰は掃部ヶ岳 1,449m）、妙義山（最高峰は相馬岳 1,104m）とともに上毛三山の 1 つである。上毛三山の呼称は、みどり市出身の童謡作詞家（ 49 ）が 1890（明治 33）年に発表した「上野唱歌 7 番：このあたりより見渡せば、ちかくは赤城 榛名山、はるかに望む妙義山、これ上毛の三山ぞ」が最初とされている。

赤城山は深田久弥著の『日本百名山』に入っており、その標高は（ 50 ）位でそれほど高いわけではない。しかし、裾野の長さは日本の火山の中で（ 51 ）位とされ、関東平野から雄大な姿を望むことができる。裾野は（ 52 ）側において発達している。

赤城山が群馬県を代表する山であることは、群馬県内の全小・中学校 約 540 校（2000 年時点）のうち、校歌の歌詞に赤城山が含まれている割合が約（ 53 ）%で非常に高く、また、1968 年制定の群馬県の歌の歌詞が「晴れやかな赤城の朝は・・・」から始まるなどからも分かる。

赤城山という名称は麓から眺めた場合の山体全部を指し、名前の由来は（ 54 ）ことが有力であるが、赤城山の神が（ 55 ）に、二荒山の神が（ 56 ）になってと戦い、赤城の神が血を流したからとの伝説がある。群馬県庁（前橋市大手町 1 丁目）32 階展望室から見える赤城山の主な峰々は左から、（ 57 ）、（ 58 ）、（ 59 ）、（ 60 ）である。

- 46 700
- 47 100
- 48 溶岩ドーム
- 49 石原和三郎
- 50 78
- 51 2
- 52 南
- 53 42
- 54 全山紅葉で彩られる
- 55 大ムカデ
- 56 大蛇
- 57 鈴ヶ岳
- 58 鍋割山
- 59 荒山
- 60 長七郎山

5. 以下の文章は、赤城山と関係の深い文人・画家である。文章を読んで誰であるか（ ）内に記せ。

●赤城山を 1905（明治 38）年と 1934（昭和 9）年の 2 回訪れ、2 度目の旅の翌月号の歌誌『冬柏』に、赤城山に関連する 89 首の短歌を発表した（ 61 ）。

●1890（明治23）年、地獄谷温泉に2週間滞在して『一口剣』を完成させ、滞在中の経験を『地獄溪日記』に著して、後世の赤城を訪れる文人たちに影響を与えた（62）。

●1904（明治37）年に赤城山を2回訪れて、夏を通して50日余りを過ごし、赤城の自然や風物を絵に描き（赤城画帖）、小説『赤城相聞歌』や散文『赤城山の歌』を発表した（63）。

●研究分野は自然科学、郷土史、考古学と幅広く、群馬考古学の礎を築いた人物である。著書『赤城山』の中で、上毛三山はそれぞれ魅力があるが、赤城山が一番であるとしている（64）。

●渋川市北橘町で生まれた民俗学者で『赤城の神』を執筆し、赤城山を「魂の故郷」と感じ、「心の頼り所を与えてくれる山」と強調している。そして、貴重な赤城山の自然の保護について、研究者として本来あるべき方向を提言した（65）。

●著書『わが青春の記』で、猪谷旅館に宿泊した際の様子の中で、酒がなくなって赤城神社のお神酒を調達したことを記している（66）。

●鳥居峠の歌碑に書かれている、東海林太郎が歌った「赤城の子守唄」の作詞者（67）。

61 与謝野鉄幹

62 幸田露伴

63 高村光太郎

64 岩澤正作

65 今井善一郎

66 草野心平

67 佐藤惣之助

6. 以下の文章は、赤城山の植物・動物に関するものである。（ ）内に適する語句を入れよ。

赤城山山頂域の植生は、落葉広葉樹の（68）を主とする自然林で、ダケカンバ、カエデ類も多くある。句碑めぐりの道入口に白樺純林地帯の案内板があるが、ここのシラカンバは人工的に植えたものである。小鳥ヶ島は（69）年9月のカスリーン台風による土石流で陸続きになってしまったが、それ以前は独立した島で、（70）やブナなどを含む独特な林相を形成している。

箕輪地区にはクリ巨径木の林があり、最大の巨樹は姫百合駐車場近くにあつて（71）の愛称で呼ばれている。この一帯のミズナラ巨径木にはたくさんの（72）が寄生しているのが見られ、その実を食べる渡り鳥である（73）の生息域とほぼ一致している。北欧では、この寄生樹の下で男女が愛を語ると成就するとの伝説がある。これにちなんで、2月の第1土曜日に開催される（74）の関連イベントで、（75）が行われたことがある。

1980年代以降、足尾山地で繁殖している（76）が餌を求めて移動してきたため、赤城山山中でしばしば見かけるようになった。山頂域の生息数は約400頭と推定されている。覚満淵では（77）が食べられて激減したため、侵入防止のネットが張られている。

赤城山全山にわたって（ 78 ）が生息し、オトギの森では、ミズナラの樹上に果実を食べるため折った枝が重なった（ 79 ）が見られることがある。

赤城山を代表する昆虫は（ 80 ）で、関東地方では赤城山西麓のモロコシ山周辺が唯一の生息地で、群馬県の天然記念物に指定され、赤城姫の愛称でも呼ばれている。

- 68 ミズナラ
- 69 1947
- 70 針葉樹（ウラジロモミ、クロベ？）
- 71 赤城栗太郎
- 72 ヤドリギ
- 73 ヒレンジャク（キレンジャクでも OK）
- 74 赤城山雪まつり
- 75 赤城山の中心で愛をさけブー（赤チューでも OK）
- 76 ニホンジカ
- 77 ニッコウキスゲ（ゼンテイカでも OK）
- 78 ツキノワグマ
- 79 クマ棚
- 80 ヒメギフチョウ

作文問テーマ：覚満淵の魅力はどこにあるのか、その魅力をどうアピールするか